

器械運動のコツをつかむ

電子情報ボードとデジタルカメラ動画機能を活用した授業実践

御坊市立藤田小学校 教諭 桑木 義典
yk-ryo@kmd.biglobe.ne.jp

キーワード：小学校，5年生，体育，デジタルコンテンツ，電子情報ボード，デジタルカメラ，動画

1. はじめに

小学校5年生体育で実践した「とび箱運動」は、できるとび方で、いろいろなとび箱をとび越したり、できそうなどび方に挑戦したりして楽しむことが単元の目標である。とび箱運動の基本のとび方である「開脚とび」を中心に、IT機器を活用して技能向上を目指した授業実践を行った。

2. 実践授業について

電子情報ボードと、Web上のデジタルコンテンツ及びデジカメで撮影した動画を活用して、体育科の器械運動における効果的な活用方法を探る。

まず、一斉指導で、Web上のデジタルコンテンツ(インターネットで体育の学習・アニメーションでできるコツをつかもう <http://www31.ocn.ne.jp/~taiiku/kodom.html>)を活用してとび箱運動のコツをつかませる。(図1)

次に、児童が練習しとんでいる様子をデジカメで動画撮影し、電子情報ボードに映し出し、フォームのチェックをする。改善点を出し合い、電子情報ボードにかき込みしてその改善点を明確に示すことで、個々の技能向上に役立てる。(図2)

デジカメの動画機能と電子情報ボードの組み合わせは、改善点をつかませるのに最適である。撮影し即座に映し出してフォームのチェックができる。授業者は、その動画を再生させ、ポイントになる箇所止め、かき込みしながら説明することができる。児童に具体的な改善点を示すことができ、技能の向上に役立てることができると考え、この実践授業を計画した。



図1 コンテンツを投影して



図2 撮影した動画へのかき込み

3. 成果と課題

3.1 成果

実践前と後で、技能面での児童の変容を調べたところ、[図3]のようになった。開脚とびができない児童が32%をしめていたが、実践最終日には、4%となった。児童から「自分のとぶ姿を見て、どう直せば良いかわかった」との感想が多く、ITを活用することで自らの改善点を見だしやすく、技能の向上につながったと考えられる。

実践前と後で、情意面での児童の変容を調べたところ、[図4]のようになった。実践前、「とびばこ運動は嫌い」と答えた児童が過半数を占めていた。理由を尋ねると、「ちゃんととべないから」と答えた児童がほとんどであった。実践後、好きと言った児童が倍増し、技能の向上により情意面でも改善されたと考えられる。

このように、技能の向上を目指した器械運動では、IT機器を活用した実践が、技能面でも情意面でも効果が上がると考えられる。

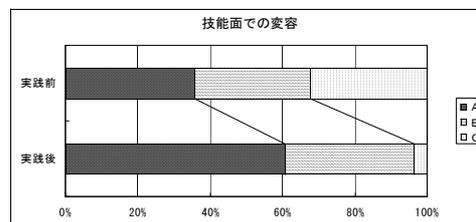


図3 技能面の変容

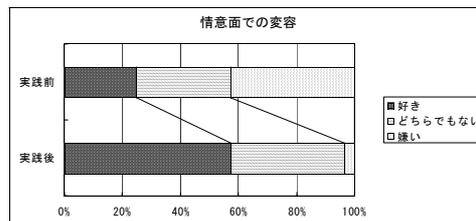


図4 情意面の変容

3.2 課題

・体育館に常設できないので、当初予定していた一体型をやめ投影型にしていただいた。それでも毎時間の準備が大変であった。(本校体育館は、放課後や夜間、一般に貸出されるため。) また、そのことにより、明るい体育館では2200ANSIルーメンのプロジェクターでは光量不足であった。日光を背にして壁側に電子情報ボードを設置することで何とか対応した。明るい体育館でも使用可能なプロジェクターが必要である。

・指導と撮影を兼ねることが難しかった。児童に体育見学者がでたときは、児童に動画撮影を任せ、児童の練習時に直接指導に専念することができた。複数の指導者が授業に入ると効率的である。

・動画撮影用のデジカメが1台しかなかったので、撮影と再生準備が忙しかった。複数台あれば効率的である。